

一三二ス専修

専修大学ホームページ

https://www.senshu-u.ac.jp/

毎月1回15日発行
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

- ③ 自然科学研究所「現地観測からわかること」……室伏広治さんがスポーツ研究所シンポで講演
- ④ 体育会応援 ネット情報生が製作パーカー好評
- ⑤ ベンチャービジネスコンテスト附属高生初入賞
- ⑥ 東郷さん(平7経済) マスターズ水泳で世界新
- ⑦ 石巻専修大学 高大産連携プロジェクト活動紹介
- ⑧
- ⑨
- ⑩

「センディ」LINEスタンプ
配信中




出願受付スタート!

2018年 1/5(金)~

- ★大学入試センター試験 利用前期入学試験
- ★スカラシップ入学試験
- ★全国入学試験
- ★一般前期入学試験

出願締切日は入学試験制度により異なります。詳細はホームページでご確認ください。

https://www.senshu-u.ac.jp
入学センターインフォメーション
【神田キャンパス】TEL03・3265・6677
【生田キャンパス】TEL044・911・0794

在学生最多19人合格

公認会計士試験 卒業生は7人

本年度の公認会計士試験は、専修大学から在学生が過去最多の19人が合格、卒業生7人と合わせ26人が難関を突破した。在学生合格者は、3年次生8人、4年次生11人でいずれも過去最多。(12月6日現在)

公認会計士・監査審査会は11月17日、2017年の公認会計士試験の結果を発表した。今年度の全体の合格者は1215人、合格率は11.1%だった。



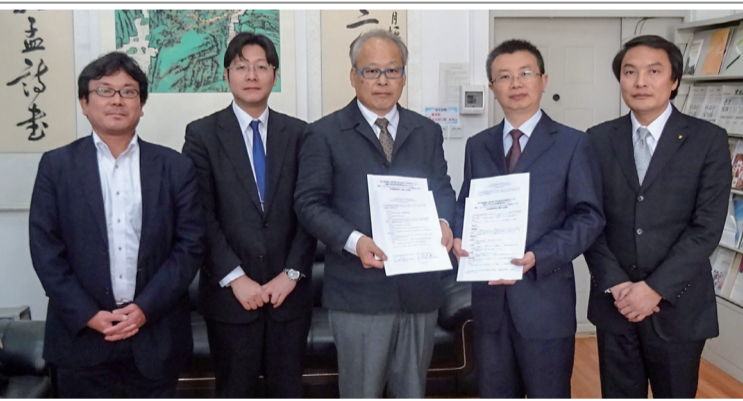
専修大学は公認会計士試験と司法試験、国家公務員採用総合職試験の17年度合格祝賀会を12月11日、神田キャンパスで開き、約80人が出席した。合格者は日高義博理事長、佐々木重人学長はじめゼミの指導教授や教員、育友会、校友会など本学関係者から温かい祝福を受けた。

社会知性開発研究センター 幅広い分野の活動進む

社会知性開発研究センターは、専修大学が掲げる21世紀ビジョン「社会知性の開発」の実現に向けて、学術・文化の幅広い分野において専門的、学際的な総合研究・教育活動を推進している。10月に誕生した新プロジェクトと、11月に神田キャンパスで開催した古代東ユーラシア研究センターのシンポジウムの模様を紹介する。

四川省と共同 地域減災研究

社会知性開発研究センター/四川・ローカルリスクコミュニケーション研究センター(LRC)、研究代表大矢根淳人間科学部教授)の新プロジェクト「ローカル・コミュニティにおける減災サイクルの研究」が10月、スタートした。



左から小笠原宮川、大矢根李、張の各氏/四川師範大学日本研究センター

情報をお寄せください
合格者の詳細と合格祝賀会の模様はニュース専修1月号に掲載します。また、合格者の情報は、エクステンションセンター事務課(☎044・911・1268)までお寄せください。

日越の人・モノの流れ追う

古代東ユーラシア研究センターシンポ

社会知性開発研究センター/古代東ユーラシア研究センター(研究代表飯尾秀幸文学部教授)の今年度2回目のシンポジウム「ベトナム・日本の交流よみかた前近代東ユーラシア」が11月18日、神田キャンパスで開催された。本学の国際交流協定校、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学部の3人の研究者が、「陶磁器」や「象」を切り口に16〜18世紀、日越間を交流に行き交った人



活発な議論が展開された記念講演会

2008年に大地震があった四川でのフィールドワークや、日本の防災社会工学で議論されている減災サイクル論、復興のためのレジリエンス論を深める。同プロジェクトの寛書調印式は11月4日、中国成都の四川師範大学で行



18世紀の日本とベトナムの象貿易について解説したリン准教授

2004年から2年間に留学していたリン准教授は、ベトナム

内22方所から出土した17世紀の肥前陶磁器について論じた。肥前陶磁器は有田焼をはじめ佐賀県、長崎県で焼かれた陶磁器の総称で、「ベトナム北部の王城や墓からは高級品が、中部や南部では日用品が出土している」と説明。輸入時期に関しては、日本側の定説より早い時期にベトナムに入っていたとする資料記録がベトナム側にあるとし、今後の研究課題を提起した。リン准教授は、「前近代ベトナムにおける象の国家的管理と象貿易」と題して日本語で講演。先史時代から野生の象を飼い慣らし、運送や交通手段、武器、献上品として活用してきた歴史と、使役象の規格や価格について解説した。八代將軍・徳川吉宗の要請で1728年に雌雄2頭の象がベトナムから輸入された例を挙げ、「国交や人の交流だけでなく、モノの生きものに関する資料研究も重要だと考えている」と結んだ。

考古学や歴史学の研究者をはじめ76人が参加し、高島裕之文学部准教授や西坂靖同教授らが発言。アジアを見通した研究の必要性が議論された。